

「秋冬に行う身近な木の手入れ方法」開催レポート

令和3年11月4日（都市農業公園）、5日（足立区役所）

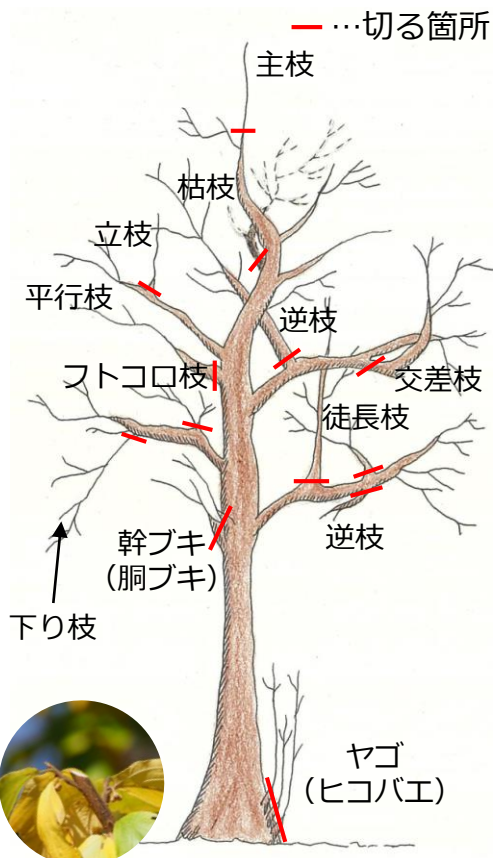
講習

「座学」では、切るべき枝の見極め方や、切り方、切る時期などを学びました。

また、土や肥料、接ぎ木の仕方などのお話も聞きました。

「実習」では、それぞれの開催場所で2種類ずつ、剪定ばさみを使っての手入れ作業を体験しました。

＜切るべき枝＞



※外芽を残して剪定した様子

・外芽[※]（外側に生えている芽）を残すと横に広がる形に整えられる。内芽を残して剪定すると、立枝や逆枝になってしまう。

・主枝は、高さを抑える場合に切る。

＜実習の様子＞



ベニバナトキワマンサク

同じところばかり切って、穴が開かないように気を付けた。



キンモクセイ

前回、整えた型を意識して剪定した。



イヌツゲ

全体を確認しながら丸くなるように剪定した。
下側は切りすぎないように注意(スカスカになりやすい)。



マンサク

花芽の位置を確認しながら、自分が手入れできるように、手が届く高さに剪定した。

切るときの角度が思ったよりも大切なようで、とても勉強になりました。

（20代 初参加）

樹木を見ながらの樹木診断など勉強になりました。

ウォーキングの楽しみになりました。

（60代 2回目）

参加者の声



講師 岸本 昭雄先生

岩田造園土木（株）足立支店長。

「1級造園施行管理技士」や「樹木医」の資格を取得し、造園工事や樹木等維持管理委託業務に携わっており、足立区では平成28年頃から、剪定講習会の講師を務める。